



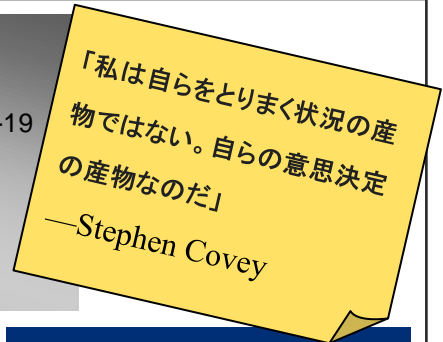
# The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 22 | Issue 3 | March 2019

## 今号では・・・

- ▶02...スクールカレンダーの変更
- ▶03...World Cultures Day
- ▶08...低学年でのLearner Profileへの取り組み
- ▶10...パーソナルスペース(対人距離)
- ▶13...Coding at KIST
- ▶19...私の奴隷への道のり
- ▶20...Japanese New Year Party 2018-19
- ▶21...Alice in Wonderland Jr.
- ▶24...Week of Code
- ▶25...smartBowl 2019
- ▶28...日本語俳句コンテスト
- ▶34...MUN(模擬国連)会議



## 理事長より

1月14日に開催した説明会に、多くの保護者にご出席いただき誠に有難うございました。ご都合で出席できなかった保護者もいらっしゃいましたので、この場をお借りし、来年度の教育に関わる変更についてごく簡単にご説明させていただきます。



KISTのミッションの中核となるのは、学習に意欲的な子どもたちに質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、学力的にも人格的にも優れた有能な若者を育成することです。KISTはミッションの達成を目指し、国際社会で活躍するために必要な高いスキルと知識を身に付けることができ、そして卒業後も引き続き質の高い教育が受けられるよう、各国の一流大学から高い評価を受けているIBのディプロマプログラム(DP)を採用しています。そのDPの最終試験において、できるかぎり多くの生徒が高得点を取得することが、一流大学進学への可能性を広げ、また学校のミッションを達成した一つの証拠となります。

そのことから、KISTではDPの最終試験のオフィシャルスコアの平均点による具体的な数値目標を定めています。現在の目標値は36点(45点満点中)で、昨年のKISTのDP平均点は38点(世界平均は30点)で、日本のIB校において4年連続で1位の成績を収めています。

世界を見ますと、イギリスやシンガポール、香港などには平均点が40点を超えるなど非常にハイレベルなIB教育を提供する学校が何校もあり、世界中の教育に対する意識の高い家庭から優秀な子供たちが集まってきているのは周知の事実です。しかしながら、そのようなセカンダリースクールへの海外留学を希望する子供にとって、学校数も少ないこともあり、非常に狭き門となっています。

KIST理事会はこのような状況を踏まえ、40か国以上の生徒が在籍するKISTにおいては、世界的な視野でミッションを達成することが必要であると判断しました。そこで、更に高いレベルの国際的な初等教育や中等教育を提供し、希望する全ての生徒たちが卒業後も継続して質の高い高等教育が受けられるよう、世界の一流大学への進学の可能性を広げることを目的とし、更なる教育改革を行なうことを決定しました。具体的な数値目標として、2023年までにDPアベレージを39点に、また創立30周年を迎える2027年までには40点とし、達成を目指します。

次のページに続く

## 重要な日程



### 2019年3月

- 9 SAT@KIST
- 13 (G2-G3) Mathematics diagnostic testing
- 13-14 Musical
- 14 (G7-G11) KPASS Math field day (@Zama) (\*Tentative)
- 21 (K1-G10) Student-led conferences
- 21 (W) Spring university fair
- 21 (G10) DP options morning
- 21 (G12) DP visual arts exhibition
- 22 Last day of quarter 3
- 23-31 Spring vacation

### 2019年4月

- 1 School resumes for all students
- 5 (G1-G10) KIST cross country meet
- 8 School photographs (for new and absent students)
- 10 (K1/K2/K3) Cross country (\*Morning)
- 11-12 (G5) PYP exhibition
- 19 (G12) Last day of classes
- 19 (G5) Day camp
- 22-26 (G12) DP study week (G12 teachers available)
- 23 ISTAA cross country invitational (\*Tentative)
- 23 (K1/K2/K3) Kindergarten concert rehearsals
- 24 (K1/K2/K3) Kindergarten concert



## 前ページの続き

来学年度から行われる教育改革の一つとして、プログラムの変更を行います。現在KISTでは、G6からG10までミドルイヤーズプログラム(MYP)を提供していますが、来学年度より、G6からG8までをMYP、G9からG10では、よりDPの準備となる International General Certificate of Secondary Education (IGCSE) を提供します。IGCSEはイギリスのナショナルカリキュラム「GCSE」のインターナショナルバージョンで、「GCSE」より少し難易度が高く、イギリスの私立校や、シンガポールや香港などのインターナショナルスクールなど、多くの学校で採用されています。

また、来学年度より進級・進学基準を変更します。変更点の一つとして、新たに「学業に対するモチベーションと態度」を基準に加えました。これは、世界で最も難度が高いとされるDPで成功するには、高いモチベーションを持ち、まじめに学習に取り組むことが必須であり、学習意欲の低い生徒には不向きなカリキュラムであることが過去の実績から明らかであるためです。他にも変更点がありますので、必ずご自身でご確認ください。なお、来学年度から適用となる新ハンドブックは、本学校年度末からホームページ上でご覧いただけます。

そして、以下のように教育リーダーシップチームに変更があります。

- エレメンタリースクール校長Dr **Kevin Yoshihara**が、来学校年度から3年間学校長を兼任することになります。アソシエイトヘッドのMrs Komakiと協力して、教育のリーダーとして学校を牽引する役割を担います。
- 現在DPコーディネーターのMr **John Rose**が、セカンダリースクールの副校長として任命されました。また、Mr RoseはIGCSEの豊富な経験があることから、IGCSEコーディネーターも兼任いたします。
- 代わって、現在数学のサブジェクトコーディネーターであり、KISTにおいて自身もDPを履修した経験を持つMr **Hiro Komaki**がDPコーディネーターを務めます。



KISTは世界的な視野でミッションを達成することを目指し、学力と論理的な思考力やコミュニケーション能力など、国際社会で活躍するために必要なスキルを今まで以上に高いレベルで習得することに主眼を置いた教育を提供します。しかしながら、KISTが目指す世界水準でのハイレベルな教育を提供する学校は、日本に暮らす多くの子供たちにとって必要がない、または興味がないかもしれません。しかし、少数であっても、KISTが目指すような教育を必要

とする子供たちのために、学ぶチャンスを提供しつづけていきたいと思います。

最後になりますが、KISTが目指すレベルの教育を成功させるには、生徒・保護者・学校が三位一体になって取り組むことが必須であり、近道でもあります。皆様のご理解とご協力を心からお願いします。

**Yoshishige Komaki**  
Board President/Acting Head of School

## スクールカレンダーの変更



ご家族の旅行、特に海外への旅行計画などの利便性を考え、2019-20年度の長期休暇や重要な行事日程を*The Comet* 12月号に記載しました。しかし、*The Comet*発行後に2019年の10月に「天皇即位礼正殿の儀」を開く10月22日を祝日扱いとすることになったと判明しました。また、学校もこの日はお休みとすることが推奨されています。この日を休校日とすることによる指導日の減少を避けるため、以前お知らせしていました休暇期間を一日短縮することを決定しました。変更については以下表をご覧ください。

この変更に伴い、ご家族の予定に変更や不便が生じますことをお詫びしますが、この直近に判明した追加の祝日について、ご理解いただけましたら幸いです。

カレンダーの完全版は6月に配布されます。

- **新学年度生徒始業日:**

**2019年8月19日**

- **KISTival:**

**2019年10月26日**

- **秋期休暇:**

**2019年10月27日～11月3日**

- **冬期休暇:**

**2019年12月14日～2020年1月5日**

(生徒の新年度の始業日は**2020年1月6日**です)

- **春期休暇:**

**2020年3月21日～29日**

- **ゴールデンウィーク休暇:**

**2020年5月2日～10日**

- **生徒の最終登校日:**

**2020年6月17日**

## World Cultures Day

The World Cultures Dayは、相互の文化への意識、文化の多様性および母国語へのサポートを向上させるものです。

2月15日に行われたこのイベントでは、KISTコミュニティの42か国を代表し、それぞれの文化のお祝いをしました。エレメンタリーの生徒は、世界のコスチュームパレードに参加し、観客には白河かもめ保育園とグローバルキッズの子供たちをお招きしました。

K1からG9の生徒たちは、ロビーとMPRでの世界の文化に関する展示に貢献してくれました。生徒および保護者の方は大人気のベークセールを楽しみ、さらには寄付いただいた多くの本がエレメンタリーの教室図書に加わりました。

またこの日28名のセカンダリー生徒が、自分たちの文化的知識や経験をエレメンタリーの生徒たちのために披露してくれました。生徒たちは昨年12月より準備を始め、高い関心と意欲を持って素晴らしい取り組みをしていました。内容は幅広く、ロシアやタイでの生活に関するプレゼンテーションや、太鼓のワークショップなどが行われました。



下記のイベントリンクから、当日生徒の発表者の様子、またお招きした三味線演奏家のMr Ichuuの演奏がご覧になれます。

Web <http://bit.ly/KIST-WCD-2019>

パレードの完全版はこちらから

Web <http://bit.ly/KIST-WCD-2019-video>

Mr Tim and Ms Erika  
KIST Libraries Team



## エレメンタリースクールニュース

### 批判的思考法

Critical thinking-批判的思考法は「決断・判断を行うために問題点について客観的に分析、評価する事」と定義されています。近代社会において、人がしっかりと判断を行うことはこれまで以上に重要になっています。オンラインでの膨大な情報に日々触れる日常において批判的に物事をとらえる能力が不可欠です。私自身の学齢期に一番身近にあった情報源はリビングに置かれていたブリタニカの百科事典でした。そしてその情報は信頼できるものでした。その後のインターネット時代の到来で情報についての認識は大きく変わり、およそ考えられるすべての事柄に関する情報がウェブ上で得られるようになりました。

数週間前にG5で行われたディベートの決勝審査を頼まれました。この単元では生徒は以下を含むテーマについてリサーチとディベートを行いました。

- 健康にとっては、運動よりも正しい食生活の方が重要である
- 田舎に住むのは都市部に住むより良いことだ
- 全ての学校で生徒が制服を着用するようにすべきだ

この中で、G5生徒の互いを助け合う友情や仲間意識に感銘を受けたのですが、それと同時に自分たちの立ち位置や意見を主張するにあたって問題を両方の側面、相手方と自身の側からしっかり理解しようとしていたことを本当に素晴らしい成長だと感じました。[Studyinternational.com](http://Studyinternational.com)によると、ディベートは「特定の立場や結論の裏にある根拠に疑問を持ち、そのことに対して論理的で考え深い議論を組み立てる能力」である批判的思考力を発達させるそうです。

PYP学習を通して生徒たちは様々な思考力を身につけます。例えば、分析、評価、弁証力などです。数週間前に行われたG5のディベートでは上記のスキルが実際に生徒によって応用・活用されていることを確認することができました。子どもが成長するにつれ、授業以外でもこれらのスキルを有効に活用できる機会を与えることで思考力がより磨かれます。ニュースを見たり、本を読んだり、夕食時の家族の会話の中などで、お子さんが事実として語られていることに疑問を持ち、必要であれば、より詳細



な説明を求め、多角的な視野から考えることができるようにサポートしていただけたらと思います。情報を自分なりに分析し、比較し、意見を持ち、判断するスキルは一生使うことになる重要なものです。



問題について議論し、結果として解決しなかったとしても、議論せずに解決するよりずっといい。」

—Joseph Joubert

**Kevin Yoshihara**  
Elementary School Principal

#### 参考資料:

Study International. (2016, January 11). 12 ways debating will help you for the rest of your life. Retrieved from:



<https://www.studyinternational.com/news/12-ways-debating-will-help-you-for-the-rest-of-your-life/>

思考スキル (Thinking skills)	
知識の獲得 Acquisition of knowledge	具体的な事実、アイデア、語彙などを、似た形式で記憶する。
理解 Comprehension	資料を見て意味を把握する。学んだことを解釈し、自分の言葉で人に伝える。
応用 Application	得た知識を、既存の方法、または新しい方法で活用する。
分析 Analysis	知識を分断し、要素ごとに分ける。それらの関係性を探り、特性を見つけ出す。
統合 Synthesis	断片をつなぎ合わせて全体を創り上げる。創造、デザイン、発展、革新。
評価 Evaluation	選択した規準や基準、条件を基に判断を行う。
弁証法的思考 Dialectical thought	同時に二つが、それ以上の視点で物事を見つめ、理解する。一方の知識をベースにして、他方の視点に対する異論や議論について考えることで、他者の視点から物事を見ることができると気づく。
メタ認知 Metacognition	自分自身や他人の思考プロセスを分析する。人はどのように考え、どのように学ぶのかを考える。

## PYPニュース

### “Enhanced PYP”における主体性

ハリーポッターと秘密の部屋でダンブルドア校長が「ハリー、私たち自身を形作るのはその能力ではなく、何を選択するかなのだ」と言っていました。これこそ私たちの人生において行う選択と主体性の関係を端的に表していると思います。国際バカロレア (IB) は PYP 最新の *Principles into Practice* で、主体性を生徒の学びの過程に不可欠な要素として強調しています。教育者として私たちは生徒の探求心、知的好奇心、自身やコミュニティ、世界についての論理的思考力を理解しようとしています。経験を積み重ね、観察し、交流し、探求することで生徒たちが新しい概念を発達させ、理解を深めます。これらの能力を身に着けたうえでこそ、生徒たちは自身の学校生活に主体的に関わり、自身が定めた目標に到達できるようになるのです。このような能力や考え方を身に着けてこそ、自身の目標を達成でき、自尊心や自己肯定感を得ることができるのです。

PYPで概念的な探求を行っている教師は生徒が自立した、そして世界的な視野で物を考えられるような思考力を身に着けられるために必要な経験を提供する責任があります。主体的に学び、考えられる学習者は自身の意見や価値観

とともに他者のことを考え、地域的な問題や世界規模の問題について考え、行動することができるようになるのです。

*The Comet* の9月号

でも述べたように、Enhanced PYPへの道程は簡単なものではありません。関係者 (教師、アドミニ、保護者) が一丸となって知識を共有し、学校と生徒が目指すべき目標を明確にしなければならないのです。しかし、しっかりとした主体性を持ち、自尊心や自己肯定感を持った子どもを育てるという目標は、その道のりを歩む確かな道しるべになると確信しています。

**Clay Bradley**

PYP Coordinator/Elementary School Vice Principal



## エレメンタリー生が受賞

名の生徒が第64回青少年読書感想文全国コンクールで受賞

毎年、日本語クラスでは読書感想文コンテストに参加しており、毎年数名の生徒が受賞しています。今年も第64回青少年読書感想文全国コンクールで、G4BのAristaさんとG5AのSakiさんの読書感想文が優秀な作品として選ばれました。

11月26日(月)に行われたElementary集会で受賞者の二人が賞状を手に入れました。これを機に読書に興味を持つ生徒が増えてくれたらと願っております。



## ニューフェイス



先号の *The Comet* 発行後にエレメンタリースクールの教育チームに新しいスタッフが加入しました—K1からG1までのPEと、複数学年のELSサポートを提供する **Alexander “Jay” McAllister** です。

学校コミュニティを代表して、Jayを歓迎します。KISTでの勤務が楽しいものとなることを願っています。



**Alexander “Jay” McAllister**  
PE Instructor (K1-G1)

## 幼児教育ニュース

みなさん、こんにちは。

幼稚園の子ども達は、寒い間もちろん元気いっぱいですが、だんだんと暖かい日も多くなり、もうすぐ春ですね。

今回は各クラスの様子をのぞきながら、子ども達がどのように算数の概念を習っているのかを見ていこうと思います。私達、幼稚園の教員は、子ども達は直接体験することができる活動から多くの事を学ぶと信じています。

K1クラスでは、先日、学校の周りにはどんな乗り物があるかを調べ、その数を数えに行きました。子ども達はクリップボードを片手に、車などが通ると、自分の集計用紙に丸をつけたり、チェックをつけたりしていました。子ども達は車、トラック、自転車、オートバイ、そしてタクシーと自分たちが見た乗り物の数を集計し、それぞれに合わせた数字を書きました。

K2クラスの子ども達は、幼稚園に登園し始めた、一番初めの日から登園日数を色々なものを使いながら数えてきました。朝のカレンダーの時間にそれぞれの日に印をつけたり、2ことばし、5ことばし、10ことばしで数を数えられるようになった事からその数え方の練習をしたりもしていました。子ども達は特に、登園100日までの日数や過ぎてしまった日数を考えるのが好きでした。先日、K2クラスでは登園100日の会がありましたが、それぞれが家庭で作ってきたポスターがElementaryのFoyerの壁に飾ってあります。是非ご覧ください。

K3AクラスではMathとLiteracyと一緒に習ったりもしています。今回は2、5、10ずつ数を数える知識を文章を書くことに反映させてみました。この活動では子ども達は、文尾にくる複数形にも気を付けることを心がけました。例えば、一つの枝には桜の花が10個咲いています。枝は3本あります。全部でお花は30個咲いています。などです。

K3Bクラスでは割り算を学ぶのに、色々な果物を使いました。先生がキウイをスライスしたもの、またはイチゴなどを使って、自分たちで、それらを半分、または四等分などに切ってみました。お友達や兄弟姉妹などと食べ物を分けるのは、ちょうど等分に分けられたり、または分けられなかったりするので、割り算を学ぶのにとっても良い一つ的手段ですね。

算数の知識を普段からの生活の中にかせることは、色々な場面で役立ちますね。ご家庭でも是非、子ども達の算数の知識を深められるような活動と一緒に楽しむ時間が設けられるといいですね。

**Eri Ozawa**

Early Childhood Coordinator (K1-K3)/K1B Teacher



K1A



K1B



K2A



K2B



K3A



K3B



## K1の役割と責任

K1では学校と家庭の両方での自分たちの役割や責任について学び、理解し、責任感を深めることで1年をスタートさせました。K1の生徒たちは学校、クラス、そして園庭での自分たちの責任について探求を行いました。また、同時に家庭で果たすべき責任についても考えました。K1の1年にわたる探求単元 'Who we are' (私たちは誰であるのか) では、自分たちの役割や責任、そして学ぶことを助けてくれている周囲の人たちについて集中的に学んできました。この単元の一環として、生徒たちは自分たちが家でのどのような役割を担い、その責任を果たしているかについての絵を描いたポスターや冊子を完成させました。またその絵を見せながらクラスの仲間たちに自分の家での役割と責任を説明することでコミュニケーション能力を発揮しました。

**Claire Yoneyama**  
K1A Teacher



Lucas (K1A)

"I help Ly to pay the Kleenex and I use money and ticket."



Julie (K1A)

"Put shoes neatly."



Owen (K1A)

"I pushing in Seby in bike."



Tamana (K1A)

"Clean up my shoes."



Shreyansh (K1A)

"Cleaning up toys."



Koki (K1B)

"I wash bowl."



Riu (K1B)

"Wash your hands."



Tsumugi (K1B)

"I take off my jacket."



Masaki (K1B)

"Toy clean up."

## 低学年でのLearner Profileへの取り組み

K2の生徒にIB Learner Profile(学習者像)を理解し、実行させることはとても難しいです。特に、まだ勉強を始めたばかりで、第二言語や、第三言語で勉強をしている生徒たちにはもっと大変です。4歳の生徒たちには、思いやりのある人、勇気ある人、心を開く人、知識のある人、正義感のある人、探求する人、コミュニケーションできる人、バランスの取れた人、考える人、反省ができる人がどういう人なのか理解するのはとても困難です。

生徒たちには、毎週、一つのLearner Profileについて、Community Circleの授業の中で勉強をしています。この7日間で、各Learner Profileの性格を理解し、例題を使いLearner Profileを使っている人の行動を考えました。たとえば、思いやりのある幼稚園生は、一人でいる子と一緒に遊んだり、お菓子の袋を開けられないでいる友達を助けてあげます。生徒たちは、自分たちで想像し、話し合い、考えを課題に応用しました。

今K2Aの生徒の課題は、「お話を伝える」です。文字とは何なのか、そして、どうやって文字は意味のあるお話を伝えているのかを勉強しています。小さな生徒たちにとって、物語の力は大きいです。物語の登場人物の分析の後、生徒たちは自分たちの性格にも敏感になります。Learner Profileは、この分析の時も役立ちます。

生徒たちは、自分たちでスーパーヒーローを作り、キャラクターを自分たちのコミックに描きました。毎週、登場人物の分析能力を利用し、キャラクターの長所について話します。そして、一つのLearner Profileを実践しているスーパーヒーローをまた描きます。その週習ったLearner Profileを頑張って表しています。すべて描き終わったら、スーパーヒーローのブレスレットをもらいました。小さいゴールを作り、集中することによって生徒たちは難しい内容も簡単に理解し、生徒たちの行動にもいい影響をもたらしました。生徒たちは、以前と比べて、クラスメート、そして自分たちの行動のいいところを発見できるようになりました。

**Catherine Wells**  
K2A Teacher

This article was translated by Shiori (G10B).  
この記事はG10B Shioriが翻訳しました。



**Inquirer Communicator Thinker Knowledgeable Reflective**

**Balanced Courageous Open-minded Principled Caring**





## K3食の選択

新しい探求単元Who We Are(私たちは誰であるのか)の一環としてK3の生徒たちは人々の食の選択肢について学んでいます。生徒たちは唯一正しい食生活というものはないのだということを理解し始めています。人は自身の健康、信仰、住んでいる場所によって異なる食生活を送っています。今のところ、教師も、生徒たちもこの単元を楽しんでいます。そして、たくさんの食べ物も楽しんでいただいています！また、もうすぐ、みんなが美味しくいただいている食べ物がどのように作られているかを知るために味の素工場への遠足を予定しています。

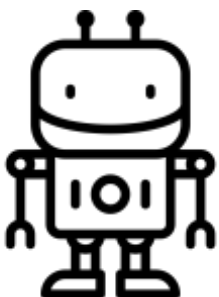


**Christie Chung and Kay Shinada**  
K3 Teachers



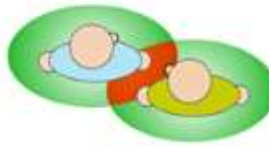
## K-Tech Lego Robot Club

K-Tech Lego Robot Clubです。エレメンタリーの生徒たちは、レゴのブロックを使って楽しくロボットをデザインし、組み立てました。生徒たちは、昨年12月8日(土)にKISTIにて行われた初めての大会に参加する少し前の昨年9月より、初めてのロボット作りに熱心に取り組み組んでいました。



## パーソナルスペース(対人距離)

G3A はコミュニティーサークルの授業で「パーソナルスペース」について学びました。また、同時に、他者を適切に自身のパーソナルスペースに入れるタイミングについても学ぶことで、どうすればIB学習者像の一つである**バランスの取れた人物**になれるのかについても考えました。



授業は、Mr Sullivan が2名のボランティアに2つの異なるフラフープの中に立ってもらい、互いの間の距離感について聞くところから始まりました。彼らは「問題ない」「大丈夫」と答えました。その後、2人は同じフラフープの中に立つようには言われました。そうするとどちらもすぐに互いの距離が近すぎることに不快感を訴え、フープの中で可能な限り離れて立とうとしました。

Mr Sullivanは自身の周りにこのフープのような輪があることを想像し、**自分自身で** この中にだれを招き入れるのかを決めなければならないと説明しました。Mr Sullivan は「パーソナルスペース」を表す円を一つ描き、その前にさらに3つの円を描きました。そして生徒たちに：両親、親友、おば、先生、知らない人、警察官、スポーツのコーチ、クラスメートと書かれたリストを見せ、それぞれをどの円(の距離)に招き入れるかを聞きました。

その後生徒たちはこのリストの人々とのどのような係わりを持つのかについて話し合いました。例えば、両親は彼らを抱きしめたりキスをしてくれたりするでしょうし、親友とはハイタッチをするかもしれません。その中で生徒たちは両親との係わり方も人や家庭によって異なるということにも気づきましたが、それは家族関係の良しあしとは関係のないものであると学びました。また、親友をハグすることに全く抵抗がない人がいる一方でハグされることにはかなりの抵抗を感じる人がいることもわかりました。

生徒たちは、人はそれぞれ異なる性格や文化的背景を持っており、各自がそれぞれの背景や考え方に従ったパーソナルスペースを設けることが大切だと学びました。

授業を通して生徒たちはIB学習者像やPYPに規定されている望ましい態度や行動をとることの重要性に気づかされました。そして、それを望まない人には触れない、ハグしないなど、他者のパーソナルスペースを**尊重**し、他者の気持ちを慮る**共感力**を育てる事がが必要です。また、もし、他の人の行動や態度が自分にとって不快なものであったときは**自信**をもって正直な気持ちを伝えることが大切です。

### Kana Furnival

Elementary School Student Care Coordinator/Grade 3A ELS Instructor



## 豆まき



K1, K2, K3 の生徒を対象とした恒例の「豆まき」が2月の1日に行われました。このイベントの準備のために、子どもたちは福を招き、鬼や病をはらうための「豆」を黄色の紙粘土で作りました。豆まき当日には「鬼は外、福は内！」と大きな声で叫びながら、紙粘土の豆を赤鬼と青鬼に向かって投げました。



## Go Comets!



エレメンタリースクールでは2月の週末にバスケットボールのキャンプがありました。小学校3年生から5年生まででしたが、2日間に及ぶ、10時間あまりの練習を楽しく過ごせました。

キャンプの後には、毎年行われている、ISTAAのエレメンタリースクール、バスケットボールチーム大会に参加しました。3年生・4年生のチームは西町インターナショナルスクールで、そして、4年生・5年生のチームは、ホームコートとなる、KISTのGymにて大会をとり行いました。3年生・4年生のチームは6チーム参加の中、少ない人数ながら4位と健闘しました。また、2年連続のチャンピオンチームとして参加した4年生・5年生チームは、ホームコートアドバンテージを十分生かして、今年も優勝することができました。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

日本代表である Akatsuki 5 は先日、来年中国で行われるWorld Cupへの出場を決めました。みんなで自分の応援するチームを応援しましょう。Happy basketball!

**Eri Ozawa**  
Elementary Basketball Coach



G4-G5 Comets: ISTAA Basketball Champions 2019



G3-G4 Comets: 4th place



## エレメンタリーELS

### ライティングにおける話すことの大切さ

これらのクラス活動の写真に共通することは何でしょうか？生徒たちが一緒に話しているように見えますが、実は子供たちはライティングの課題に取り組んでいる真っ最中なのです。

なぜ担任教員やELSのインストラクターは、ライティングの一環として話す時間を設けるのでしょうか？

スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングは別々に評価されますが、実際にはこれら4つの能力は日常生活で自然と一緒に使われ、他者を理解したり自己表現をしたりする際に、それぞれの能力がサポートし合っています。

得意でない方の言語で書く時にはより一層、話すことはより上手に書くことを助けます。先生とだけでなく、友達と話すことも効果があります。会話を通して私たちはアイデアを発想し、どの順番でそのアイデアを言語化するか考えます。また、どのように正しく意味する文章を作るか理解し、自分たちの考えを正確に伝えることのできる言葉を探します。

もしお子さんが家でライティングをする際にどのようにサポートするか探している方は、書いている内容についてお子さんと議論することから始めることをお勧めします。議論する際の言語は、お子さんが書いている文章と同じ言語である必要はありません。どの言語であったとしても、お子さんのライティングについて、家で使われている言語で話すことはとても大切なことです。

**Rachel Parkinson**  
ELS Coordinator (Elementary)/G5 ELS Instructor



左から、Aryan, Sean, Rury (G1A), Rutvik, Lauren (G3A)。お互いのライティングについて、良い点と向上できる点について話しています。



Extension LEAPでの SarahとDootee (G2A)。お手本となる人物へ書いている手紙について話しています。それぞれのお手本となる人が何をしていたかについてお互い質問し合うことで、手紙に書くアイデアをさらに出していきます。



KoaとSara (K3B) が、それぞれのライティングにどのような詳細の内容を加えることができるのかについて話しています。



## Middle School Spelling Bee

1月28日の月曜日にKISTのミドルスクールのspelling がLMCで開催されました。今回はG6からG8までの万全の準備を整えた生徒10名が参加しました。全員とても優秀で、優勝者を決定するまでに19ラウンドを要しました！参加した生徒の数名は予習リストにあった225単語のスペルを全て暗記していましたので、最後の3ラウンドではリストにない単語を追加しなければならなかったくらいです。

10名の参加者の皆さん、ありがとう、そしてよく頑張りました。

Grade 6 – Aryan, Tomoyoshi, Arham, Cherry と Sehyun

Grade 7 – Shaunak と Arnav

Grade 8 – Ketan, Devaj と Sara

入賞者は：



Sara (G8A)



Shaunak (G7A)



Arnav (G7B)

Saraの勝利を決めた単語は**fruition**—(n.)実現、達成、または結実 です

入賞者の皆さん、おめでとう。そして参加者、観客、審判の皆さん、お疲れさまでした。Saraは3月10日のJapan Times National Spelling Beeに出場します。KIST代表として出場するSaraの勝利を祈ってください！



## Coding at KIST

### 生徒たちの素晴らしい取り組みについて

私たちの世代では小学生の時にcodingの授業がなかったため、生徒たちがどのようにcodingを習得していくのかを考えるのは難しいことです。幼稚園の生徒たちは、配列を学ぶことができるのでしょうか？G1の生徒は条件分岐を理解することはできるのでしょうか？また、G3の生徒はデジタル市民権についてどのように理解するのでしょうか？

KISTの生徒たちにプログラミングの中心的なコンセプトを理解する能力が備わっていることを、私は嬉しく思っています。例えば、K3の生徒たちは配列の中にある指令を用いて、迷路を解く方法を私に教えてくれますし、G1の生徒たちは「もしあなたが女の子なら、時計周りに回ってください；そうでなければ、反時計回りに」といった条件分岐を用いて、ダンスをすることができます。さらにG3の生徒たちは、安全にオンライン上で共有できるものについて、また共有されたクラウドのストレージの管理方法についてといった大切なことを学んでいます。

生徒たちが最初に取り組むプロジェクトは [scratch.mit.edu](http://scratch.mit.edu) にあります。このウェブサイトでは、生徒たちがコードの「ブロック」のつなぎ合わせたものを使って、動きのある絵や背景を作っていきます。G3では、全員が自分たちのデザインしたゲームを製作することができました。G2の生徒たちはダンスパーティーやスポーツゲームを動画化し、G1では自分の好きな季節のバーチャルなグリーティングカードを作成、さらにK3では自分たちの名前の文字を作成して、それを楽しく動かしたり変化させたりしました。生徒たちが[scratch.mit.edu](http://scratch.mit.edu)で有効なスクリプトを作成する高い能力を身に付けていることを、私はとても誇りに思っています。最初は難しかったようですが、すべての生徒が根気よく取り組み、皆を笑顔にするようなアニメーションを完成させました。ぜひお子さんに[scratch.mit.edu](http://scratch.mit.edu)のログイン方法を尋ね、子供たちの最初のプロジェクトをご覧ください！

今後の予定：お子さんのリサーチプロジェクトのプレゼンテーションに関するビデオを、楽しみにしています。

#### Emily Cobbs

Coding Instructor (Elementary)



## エレメンタリーSRC

エレメンタリーSRC(生徒会)はG2からG5の各クラスから選出された代表者により運営されています。各クラスから選出された4名の代表者の任期は1年の4分の1(4半期)です。



私たちは代表となった生徒たちが社会的、精神的、行動・態度的な問題についての意識を高め、エレメンタリーの生徒を代表してこれら問題に関して前向きな取り組みを実施できるようになることを願い、今学年度の始めからESRCのメンターを務めています。

ESRCメンターの目的は生徒たちを以下において支援することです。

- 学校が自分たちの事を気にかけて、ニーズや意見を尊重してくれていると感じられるようにする
- 生徒にとって重要と思われる幅広い事柄について意見や気持ちを表現できる場を提供する
- ソーシャルイベントや資金調達イベントの開催
- 活動を通じたチームワーク、責任感、思慮深さ、コミュニケーション、管理能力、公平さ、リスニング、意見の傾聴、信頼性、自信、リーダーシップなどのスキルの発達
- 民主主義の促進

今学年度、ESRCのメンバーは以下に取り組みました。

### • ベルマーク収集の促進

今年度の始めには、CAIによるベルマーク活動を支援するためのポスター作製や収集活動の啓発を行いました。

### • エレメンタリー集会

今年度からエレメンタリースクールでは年4回の集会を企画します。それぞれがPSHE(個人の社会、健康教育)に沿ったテーマについてです。ESRCではこれらの集会を主導し、ステージ上で他のエレメンタリー生に集会の趣旨について説明することでコミュニケーションスキルを発揮しました。メンバーはIB学習者像やPYPの態度を表す言葉を使って、自己紹介をするとともにESRCの一員としてのモットーを説明しました。

### • Odd Socks Day(不揃いの靴下の日)

いじめ防止ウィークに対する意識を高めるため、ESRCではOdd Socks Dayという企画を立てました。このイベントの目的は丸一日不揃いの靴下をはくことで、それぞれの違いを認め、受け入れる柔軟な気持ちや寛容さを育むことでした。G5の代表の一人が学校の理事会にこのイベント承認のための文書を作成し、提出したことで許可を得ることができました。代表委員たちはこの活動の趣旨やルールを説明した短いビデオも制作し、エレメンタリーの仲間たちと共有しました。

### • 北海道地震被災地のための寄付活動

昨年の地震の被害を受けた北海道の子どもたちに共感の気持ちを示すためにESRCはイベント案を募集し、バイクセールを企画し、承認を求めました。これは残念ながら食品の安全性やアレルギー対応の難しさから実施できなかったのですが、その代わりにフリードレスデイを企画しました。メンバーたちはフリードレスのテーマや色を決めるために議論をし、3つの選択肢にたどり着きました。その後、各自がクラスに戻り、一番人気のあった案に決定しました。

ESRCのメンバーたちが挑戦する心と行動力を持っていることを誇りに思います。皆さん、よく頑張りました！

Oliver SullivanとKana Furnival  
Elementary SRC Mentors



Arista (G4A)



Sora (G4B)



Marvi (G3A)



Yicheng (G3B)



Tae Sung (G2A)



Harsh (G2B)

## LEAPニュース



K3 サポートクラス



G1 サポートクラス



G2 発展クラス

## 生徒の意欲をアップさせるための目標設定

教師や保護者にとって全く不思議ではないのですが、LEAPの始業前英語サポートが始まる午前8:10になると腫れぼったい目をした眠そうな子供たちが意欲など忘れてしまったような表情で教室に入ってきます。

The Cometの先月号でもお話ししましたが、補習授業では英語学習者にとって不可欠の追加サポートを提供していますが、意欲や自信が足りない場合や、効率よく授業を受けられない場合、この貴重な時間が無駄になってしまいます。そこでこの質問です: どうすれば生徒が学ぶことに意欲と興味を持てるのでしょうか?

LEAPのインストラクターはこの質問に様々な回答を用意しています。楽しい学習経験を提供すること(そのうちのいくつかはこの記事に添えた写真でご覧いただけます)もその一つです。そのなかで、特に皆さんにご紹介したいものが一つあります。それは目標設定をすることです。多くのLEAPインストラクターが学期の始まり毎に生徒とそれぞれの目標を設定します。そうすることで生徒が主体性や自主性、自律心をもって学ぶための理由付けをします。生徒が自分で適切な目標設定を行うことで自身に必要なスキルや知識、弱点を明確にし、自身の学習に責任を持たせるのです。自身の学力や進歩が自分の努力の結果だと認識できる生徒の方が意欲をもって学習に臨むことができるようです。「…より自尊心を持ち、達成感や自信、自己肯定感を持つことができます。そして、これらの生徒はより難しい課題に取り組みうとし、失敗をしてもくじけず、より高いレベルの思考力や課題・成果物を達成します」(Seifert 140)。

ここでは現在生徒たちが設定した目標や、LEAPインストラクターが用いている目標設定の方法をいくつかご紹介したいと思います(生徒のプライバシー保護のため、個人名は伏せております)。

学期の始めに、G1の生徒は自分の強みや弱みについて振り返りを行いました。インストラクターの指導の下、学期中に特に注力すべきライティングの分野を特定しました。G1の子どもたちが自身の改善点を認識するというのは少し難しいことではありましたが、以下のような目標があげられました。

- 「助動詞を上手に(使えるように)になりたい」
- 「もっと上手な会話が書きたい」
- 「もっときれいに書きたい」(きれいな文字で書きたい)

生徒の学年が上がるにつれ、具体的な目標を設定し、そこに至るまでの段階を明確にし、自身の進捗を冷静に見極める管理能力を身に付けていきます。Ms KanaのG3クラスではS.M.A.R.T. メソッドを使っています—S.M.A.R.T. はspecific(具体的)、measurable(測定可能)、attainable(達成可能)、relevant(関連性のある)、timely(時期的に妥当)、の頭文字で、生徒が自信で適切な目標設定ができるよう補助する方法です。G3の目標設定には以下のようなものがあります。

- 「3月末までに、物語を書く時、登場人物の会話をしっかり改行して書けるようになる」
- 「3月末までに、物語を書くときに最低1つは過去完了形を使う」

Ms Rachelの G5 クラスでは生徒が授業で用いる言語スキルに合わせてアカデミックライティング(小論文)、語彙の増強、読解などを含む複数の目標を設定します。生徒には目標設定した理由を求め、学期中常に自身で振り返りを行うことを求めます。今学期、生徒は以下に力を入れたいと話しています。

- 「主な主張を一点に絞り、関連する詳細をしっかり段落にまとめた」
- 「英語の単語をもっと理解できるように他言語(母語)を活用する」
- 「文章の流れが良くなるように、段落を論理的な順序で構成する」

どのような方法をとっていても、目標設定をすることで生徒の認知能力を発達させることは学習において効率と意欲をあげることにつながります。LEAP参加者の保護者の皆さんにはお子さんの学習目標と、LEAPがどのようにその達成に関与しているかについては是非聞いていただけたらと思います。生徒がG1からG5までの間に大きく成長し、学習に責任を持てるようになっていく姿を私と同じように誇らしく思っていただけのことと思います。

Katherine Millican  
LEAP Coordinator



## Reference:

Seifert, Tim. "Understanding Student Motivation." *Educational Research*, vol. 46, no. 2, 2004, pp. 137-149. *Research Gate*, doi: 10.1080/0013188042000222421



G3 発展クラス

## KIPSニュース

### From the P1 classroom...

KIPSでは、子ども達が将来、国際社会で活躍するためにカリキュラムを組み立てて学んでいます。今回は、様々な文化学習のひとつとして、日本文化の学習についてお伝えしたいと思います。週に1度の日本語のクラスに加えて、

KISTで行われるJapanese New Year Partyに参加し、日本の伝統行事であるお餅つきを見学し、ご来校のたくさんのお相撲さんと触れ合い、一緒に写真を撮ったり、相撲をとったりする機会に恵まれました。大きくて優しいお相撲さんに、子ども達も泣いたり笑ったりと、いろいろな表情で感情を表現してくれました。

また、月に1度、地域の図書館からボランティアの方がKIPSまで来て下さり、おはなし会が催されます。歌やふれあい遊び、パネルシアターなどでTerm毎のテーマについて、学習を深めています。P1クラスの子どもたちも楽しみにしており、おはなし会が始まると20分間集中して参加をしています。最初の頃は、緊張から表情が固かった子ども達も、最近では子ども達の方からボランティアの方の傍まで寄って行って、笑顔いっぱいハイタッチをする姿も見られるようになりました。子ども達も上手に、「ありがとう」「Thank you」と挨拶をしています。

そして、地域のイベントに積極的に参加することで、スクール周辺の地域の皆さんと、感動を一緒に体験したいと考えています。今年度はフカキタハイタッチプロジェクトに参加します。東京マラソンのために、KIPSの子ども達も1人1つずつ応援ボードを作成します。クレヨンや絵の具、その他いろいろな素材を用意し、子ども達の創造力を引き出し、大きな応援の力にしようと考えています。

**Hitomi Shimizu**  
P1 Teacher



### From the P2 classroom...

時間が経つのはあっという間で、新年度が始まり早くも半年が経ちました。子どもたちは、お友達との関わりも増え、おもちゃの貸し借りが出来るようになりました。その他にも、流暢にお話をするようになったり、早く走れるようになったりして、情緒的にも身体的にも成長している姿を間近で見られることを嬉しく思います。

P2の子ども達は意欲的にクラスに参加しており、Term毎のテーマに沿って新しい事に挑戦をしています。Term 4ではShapes and Colorsを、歌や踊り、お話、製作を通して学んでいます。散歩中も看板や信号など、周りの物を観察しながら「Green circle!」、「I can see a red diamond!」など発見した物を嬉しそうに知らせてくれます。スクールで覚えたことを自発的に探したり、考えたりする力もついてきました。Spring Concertに向けて練習をしている「♪Yes, I Can♪」を、自由遊びや外遊びの時間に口ずさんでいる子どももいます。

KIPSでは、子ども達の成長に合わせた保育・教育をし、子ども達が楽しんで取り組めるよう配慮しています。KIPSのスタッフも子ども達と一緒に成長し、全体がより良い環境になるよう努めていきたいです。



**Yoshimi Machida**  
P2 Teacher





## MYPニュース

### MYP 生がWorld Cultures Dayのセミナーに参加

G9とG10の生徒は先日行われたWorld Cultures Dayの最後にLMCでの生徒主導セミナーに参加しました。Riya(G10A)の司会の下、言語、アイデンティティ、文化、国際理解など多岐にわたるテーマについてのディスカッションが展開されました。



写真撮影 Michiko (G10A)

DP生のYui(G11A)、Noa(G11A)、Ewan(G11B)とTwisha(G11B)がそれぞれの複雑かつ豊かな言語と文化的経験がどのように自身の学生生活に影響を及ぼしているかについて説明してくれました。多くの経験をされたPYP体育教師のMr OtaとMYP数学教師のMr Vincentもディスカッションに参加されました。

毎年このディスカッションでは、生徒の多様な経験が彼らの世界観に密接な影響をもたらしていることが露になります。生徒も教師もそれぞれの複雑な言語的背景・経験が

左から: Noa, Mr Ota, Yui, Riya, Twisha, Mr Vincent, Ewan

自身の成長につながった記憶を共有してくれました。もちろん、それによる不利益も同様に共有されました。今年の参加者は全員、自身の持つ文化に完全に所属できていないという感覚を持っていることを語ってくれました。

このイベントはKISTでの多様性や、国際理解の価値について改めて考える非常に良い機会となりました。

### MYP 生がサービス(奉仕活動)を振り返る

MYP students in G6~9のMYP生が1学期のサービスに関する詳細な振り返りを完成させました。

MYPでのサービスは生徒に「リサーチ」「行動」「振り返り」を求めます。これにより生徒はコミュニティのニーズを理解し、それにこたえるために行動をし、自身の行いを振り返り、コミュニティの役にたてたかを評価することができるのです。

サービスプロジェクトの成果を測る基準はMYP Service Learning Outcomesです。

学期末の振り返りは生徒が世界をよりよく変えるためにもっとできることがあるのではと考える機会を提供するためのものです。

**Robert White**  
MYP Coordinator

- ✓ MYPサービスは生徒が自身の強みや弱みを認識することに役立ちます。
- ✓ MYPサービスは生徒が新しいスキルを獲得するための挑戦を提供します。
- ✓ MYPサービスは生徒自身が主導した取り組みを計画し、評価し、議論する機会を提供します。
- ✓ MYPサービスは生徒が自身の行動に忍耐力を持って取り組む機会を提供します。
- ✓ MYPサービスは生徒が他者と協力する機会を提供します。
- ✓ MYPサービスはその取り組みを通して、生徒が国際理解や他言語、異文化理解を深める機会を提供します。
- ✓ MYPサービスは生徒が自身の行動の倫理性を検討する機会を提供します。



## 科学科最新情報

### G11 と G12 の生物・ESS履修者が 上野動物園を訪問

1月のG11とG12の生物とESSの履修者が上野動物園を訪問し、動物園での保護・保全活動についてのお話を同園教育普及課の鈴木仁さんから伺いました。鈴木さんは上野動物園の4つの主な役割についてご説明くださいました。4つの役割とは、レクリエーション、保護・保全、研究と教育です。生徒たちよいは上野動物園のパンダ、リーリー、シンシン、そしてもうすぐ2歳になるシャンシャンを通したパンダの保全・保護活動について学びました。



鈴木さんは上野動物園が過去に発表したいくつかの興味深い研究についても共有してください、その中には日本固有の小笠原アカガシラカラスバトについてのお話もありました。質疑応答の時間も設けていただき、最後には動物園の中を散策することもできました。生物(エコロジー)、そしてESSでの種の保存や保全について実際の現場で生きた形で学ぶ機会を与えていただけたことに感謝します。



### G11 ESS履修者が 小名木川でフィールド ワーク



ESSで必須のフィールドワークの一環として1月16日にG11が学校裏手を流れる小名木川で水の品質検査のためのサンプル採取を行いました。また、岸壁に繁殖する藻類の分布も実際に自分たちの目で確認することで、授業で学んだことをより一層理解することにつながったと思います。



### G12 のESS & 地学履修者が新江東ゴミ焼却 施設を訪問

昨年の冬休み直前にG12のESS及び地学履修者が新江東ゴミ焼却施設を訪問しました。江東区から出る燃えるゴミがどのように処理されているかを実際に目にするのは大変興味深いことでした。ごみを焼却することで得られるエネルギーがあまりに膨大なため、それだけで焼却施設全体の稼働に必要なエネルギーをまかなえるそうです！また、ごみ焼却後に出る灰を埋め立てるための土地がすでにいっぱいになってしまっていることも学びました。もう一度私たちが出しているごみの量について考え直す良い機会になりました。

**Pamela Chan**  
DP ESS/MYP Science Teacher



## 私の奴隷への道のり



前セメスター、G10の生徒たちはI&Sの授業で「交易と交換」というユニットをこなしました。このユニットで生徒たちは「交易と交換」と提携・開発の関係を追求しました。様々なトピックの中でも、生徒たちは大西洋奴隷貿易における人道に対する罪と提携・開発の関係に注目しました。

大西洋奴隷貿易についてまとめたビデオを何本か見たあと、生徒たちには、故郷から連れ去られた末に奴隷として働くことを強要された人になりきって、読み手の感情に訴える物語を書いてもらいました。Ena (G10)の物語には、奴隷として働くことを強要された人たちの生活が記述的かつ感動的に描かれています。

**夜**の出来事であった。私たちの住む小さな村の草むらから、かさかさとした音が聞こえた。どうせ野生の鶉かうさぎが通ったのだろうと、私はその音を気にせずにはいた。かすかに残った焚き火の火を消し、就寝の準備を進めていた矢先、私は聞いた。あの音であった。ただ、前のように微細な音ではなかった。静寂を破ったのは小さな話し声だった。薄い壁の奥から聞き取れた言葉は「乗り込む」、と「手枷」。私は恐怖を覚え、とうに寝床についていた兄を起こしに向かった。必死に起こそうと兄の体をゆする私に、兄はうめき声をあげた。兄に話し声のことを伝えると、彼は飛び上がり、何かを掴んだ。武器のように見えた。

「奴らが来たのか」、兄が否定してくれることを願いながら私は聞いた。  
「わからない、確認してこよう。お前は何かがあってもここに残れ」  
そう言うと、兄は裏口へと向かった。  
一分、五分、十分。私は待ち続けた。

しばらくして、私はついに待ちきれなくなり、音を出さないように外へ出た。兄の姿は見えなかった。月夜に照らされた森の影がとても不気味に感じられた。振り返ると、右手に鎖を持った男が私の目の前から勢よく襲い掛かってきた。半狂乱に暴れまわる私の手首に何かが留められたのを感じた。ほぐれた胸の悪い味の布から訴える叫びも空しく、私は暗闇から現れた二人の男に押さえつけられた。肺がつぶれる感覚のあと、私は意識を飛ばした。あたりは真っ黒になった。

激しい頭痛と共に揺れる床の上から視線をずらした。まて、揺れる床だと。首をわきに向けると、外人が何人か鎖を力いっぱい引っ張っていた。状況が把握できないまま、私は視線をさらに上へ向けた。そこには、鎖でつながれ、手を縛られた村人たちが平らでない床をとぼとぼと歩いていた。村人の一人が倒れ、白人の男が即座に鞭打ちにした。村人の額は汗で覆われ、私は叫びを押し殺した。しかし、運の悪いことに私を抱える男の聴覚はとても繊細だった。男は私を投げ捨て、一瞬の躊躇も見せずに私の両手につながれた鎖を引っ張りはじめた。バランスを崩した私を男は力づくで引きずった。小石は私の皮膚を削り肉を裂いた。男たちがペースを上げるごとに、私の足は地面を掴めなくなった。海岸について初めて、私は自分の体を引きずり起こすことができた。

港に並ぶように命令された時だった、私が彼を見たのは。鎖さえ私をつないでいなければ、私は彼のもとへ走っていただろう、兄のもとへ走って彼を恐怖と喜びのハグで包んでいただろう。しかし鎖は私の体を縛ることはできても私の声を縛ることはできなかった。私は兄の名前を叫んだ。鎖に縛られ、もがきあがいている間も、ずっと、ずっと彼の名前を叫び続けた。やっと兄は私の方を振り向いた。彼の口の動きは読み取れなかったが、兄は確かに私に話しかけていた。乱暴な腕が私の軟弱な腕を掴み、私は恐怖に震えた。「これが列を乱す奴の運命だ」私に告げられた最後の言葉だった。暗闇だけが残った。

Ena (G10B)



## Japanese New Year Party 2018-19

KIST恒例のJapanese New Year Partyが2019年1月30日に開催されました。今年は天候にも恵まれ、これまでよりも暖かく感じられるなか、日本語科教員を含む参加者全員が素晴らしい時を過ごしました。

これまでと同様に、ご厚意で力士の皆さんにもイベントにご参加いただきましたが、今年は武蔵川部屋の力士の皆さんが生徒との模擬相撲を行ってくださいました。力士の皆さんは餅つきも実演してくださいました。KIST、KIPS双方の生徒にとって伝統的な餅つきを体験し、力士の皆さんと相撲を取れるという素晴らしい一日を提供していただきました。

昨年同様、KIST及びKIPSからの保護者ボランティアの皆さんもこのイベントをサポートしてくださいました。保護者の皆さんにとっても、子どもたちにできたてのお餅をふるまいながら他の保護者の方と触れ合う良い機会になったのではないかと思います。KISTでは保護者の皆さん同士のつながりを深めていただくことを望んでいますので、イベント中、生徒だけでなく、ボランティアの皆さんの笑顔を見ることができたことをとてもうれしく思っています。お手伝いくださった保護者の皆さんに感謝いたします。皆さんなしにはこのイベントを成功させることはできませんでした！

今年のNew Year Partyも大成功に終わりました。学校コミュニティに日本の文化や伝統を紹介するこのイベントを来年以降も引き続き実施できることを望んでいます。KIST保護者ボランティアの皆さんと武蔵川部屋の力士の皆さんのご協力に感謝いたします！

### The Japanese Instructional Team



## Alice in Wonderland Jr.

KISTのミュージカルパフォーマンス; ディズニーの「不思議の国のアリスJr」に是非お越しください！



公演は3月13日と14日の午後5時から深川江戸資料館で行われます。チケットは500円で、エレメンタリーオフィスでご購入いただけます。

昨年の「美女と野獣Jr」は大好評でしたので、今年もまた素晴らしい公演をご覧いただけるよう出演者一同努力しております。皆様ぜひお越しください。

詳細は以下のとおりです:

**日程:** 2019年、3月13日と14日

**時間:** 5:00 p.m. – 6:30 p.m.

**料金:** ¥500 – チケットはエレメンタリーオフィスでお求めいただけます

**場所:** 深川江戸資料館

**運営スタッフ:** Robert Collins, Julian Dave, Emma Moulder, Makiko Duran

**メインキャスト:**

**Sara (G11A)、Yui (G11A)、Conan (G11B)、Justin (G11B)、Ena (G10B)、Thilo (G10B)、Harunosuke (G8A)、Ketan (G8A)、Saanvi (G8A)、Srinandhitha (G8B)、Gini (G8B)、Maya (G7A)、Rintaro (G7A)、Haruka (G6B)、Sehyun (G6B)、Hyun Seo (G5A)、Jacqueline (G5A)、Riu (G5A)、Ewan (G5B)、Ji Min (G5B)、Aina (G4A)、Arista (G4A)、Ankita (G4B)、Mirea (G4B)、with the G4A and G4B students**

**KIST Music Department**



## オーケストラ・クラブ

2月15日の金曜日、オーケストラクラブにボストン在住の指揮者 Yohei Sato さんがいらしてくださいました。

オーケストラは Mr Sato のために「展示会の絵」の最終楽章を演奏し、Mr.Sato は私たちに貴重なアドバイスを提供してくださいました。まず、楽器のチューニングの仕方、正しい座り方や姿勢、ブレスを合わせること、そして演奏中に視線をどこに向けるのかについて教えてくださいました。その後の最初のチューニングで、もう本格的なオーケストラのような音色を出すことができ始めていました！

Mr Sato は6月にまた帰国される予定で、またKISTオーケストラの演奏を聞きにいらしてくださいます。

Mr Sato 本当にありがとうございました！

**Makiko Duran**  
Secondary Music Teacher



## 数学科ニュース

### DP 数学とTOK(知識の論理)の授業: アイザック・ニュートンとゴットフリート・ライプニッツの立場で

数学史の最も素晴らしい発展は微積分の発見にあります。微積分は変化率に関する学問で、近代数学の基礎ともいわれるものです。現在、微積分は物理、工学、経済、天文学、コンピュータ化学など多岐にわたる分野で応用されています。微積分はシステムの体系化の枠組みとして用いられ、予測される結果を導き出すことができます。この著しい発展は17世紀中期に個々に微積分を発見したといわれるニュートンとライプニッツの功績です。

生徒にとって微積分は数学の中で最も楽しい分野です。G11の始めに基礎微積分の授業が行いましたが、生徒たちはその更なる発展や数限りない応用について非常に大きな関心を示しました。IB DP生として、彼らはTOKの授業においても「知識の探求者」「知識を有する者」として成長し始めています。そのため、TOKを良い契機として生徒にニュートンやライプニッツの立場に立って考えることで微積分の認識論について考察することにしました。



生徒たちはその更なる発展や数限りない応用について非常に大きな関心を示しました。IB DP生として、彼らはTOKの授業においても「知識の探求者」「知識を有する者」として成長し始めています。そのため、TOKを良い契機として生徒にニュートンやライプニッツの立場に立って考えることで微積分の認識論について考察することにしました。

まず、ニュートンやライプニッツが用いた解析法について事前にリサーチを行ったうえで、GeoGebraという近代的な数学ソフトを使用してそれぞれの解法を再現しました。生徒たちはソフトに組み込まれている基礎的なシミュレーションツールを使用して様々なXの値における関数の変化の割合(接線の傾き)を導き出しました。そしてそれぞれの微積分に関する基礎知識をもとに、三角関数、指数関数、対数関数など、これまで扱ったことのない関数の導関数を求めました。数回のシミュレーションの後、生徒たちはそれぞれが選択したその他の形式の関数を解析して他のパターンを見つけようと熱心に取り組んでいました。

総まとめとして、生徒たちは「微積分は発明されたのか、それとも発見されたのか?」「どのように演繹法あるいは帰納法を活用したのか?」「この課題の探求において(WOK)

知識の獲得法を検討したか?」「どのような個人的あるいは共有知識が考えられるか?」など、様々なTOKの質問を通してこの課題における知識の獲得過程について振り返りを行いました。この課題を通して、生徒たちは様々な「アハ体験」をするとともに、IB学習の真価を理解することになったと思います!

**Yugo Nakamura**  
IB DP Mathematics Teacher



### MYP数学: G6の座標幾何学の授業

G6は現在5番目の単元:座標幾何学の学習の中盤に入っています。この単元では多くの探求を行いました;有効な公式を組み立てるためにこれまで学んだ数学的知識を最大限に活用しました。また、独立変数と従属変数を認識するために科学的知識も活用しました。

この授業で重要だったのは実際に行動してみる!ということでした。生徒たちはある設定・設問を与えられ、解が独立変数だと思ったら教室の方端に寄り、従属変数だと思ったらもう一方の端に寄ることでMs Greenに自身の考えを伝えました。どちらか分からない時に集まる場所もあります(わからなくても大丈夫、そこから学べばいいのです!)。グループ内でもいくつかの素晴らしい議論が展開していました。生徒たちはこの活動を始めたときは必ずしも意見が一致する事ばかりではありませんでしたが、最後には、自信をもって変数を分類し、その理由についても述べることができていました。

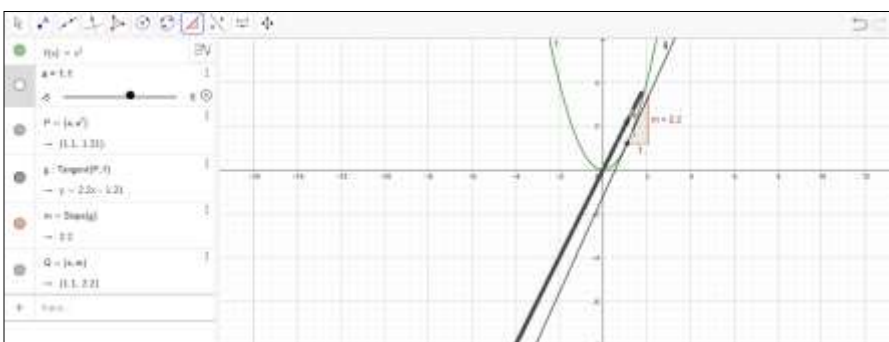


ゆっくりと時間をかけて設問を読んで考える…  
急ぐ必要はありません。



熟考中

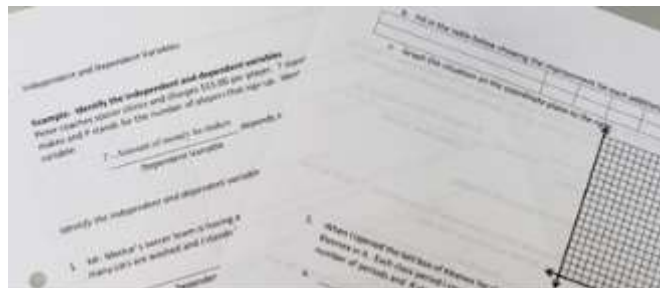
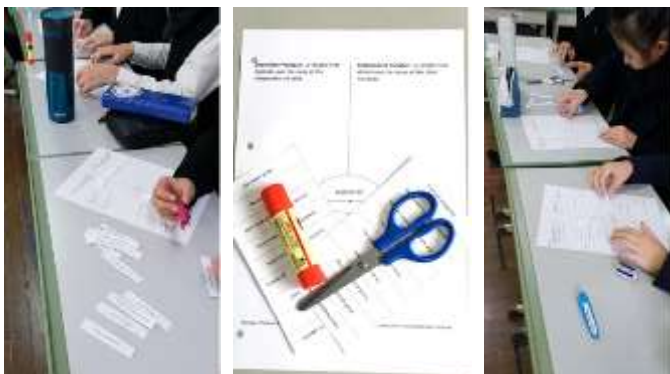
次のページに続く



## 前ページの続き

そして個人で課題に取り組みます！生徒は「電話料金明細」など、各自変数が含まれた用紙を前に、「独立」か「従属」かを判定し、分類し、周りの人たちと答えについて検討します。どちらにも当てはまるものがあるため、皆の判断とその理由を非常に興味深く聞き、より考えの幅が広がりました！

さて、それでは実践です。



変数が書かれたプリントが渡され、生徒はそれらをグラフ化していきます。以前も教科書で、似た問題に取り組んだことがありましたが、この授業の後、生徒たちは前よりずっと自信をもつことができるようになり、正答率も上がりました！

**Louise Green**  
IB MYP Mathematics Teacher

## 運動部最新情報

### 冬季スポーツ

#### 関東地区JV男子サッカー

Comets JV サッカーチームのシーズンはSt Mary's、Lycee Francais (LFIT)、ASIJ B チームへの勝利で幕を開けましたが、残念ながら、シーズン中1勝1引き分けであったSt Mary'sに準決勝で敗退してしまいました。今回チームの主力がG9とG10であり、コーチHiroの緻密な戦術と合わせて、今後もチームの成長が大いに期待できます。

#### ISTAA U-18 バasketボール

今シーズンの試合も残りわずかです；今季はLFIT と BST との2試合を残すばかりです。男女どちらのU-18 チームも勝ち負け入り乱れるシーズンとなりました。一同、満足のいくISTAAトーナメントを願っています。結果は次のThe Cometでお知らせします。

#### ISTAA U-14 バasketボール

今期、U-14 男子は8校とのトーナメントを経験しました。こんなに多くの学校が参加するのは初めてのことです。Comets は関東地区のBチームやISTAAチーム相手に善戦しました。これまでの6戦中負け試合はYISとの4点差と、Columbiaとの2点差という僅差の試合のみです。

U-14女子は丁度関東地区のシーズンに本格的に突入しようというところです。CometsはこれまでにISTAA加盟校との親善試合にいくつか参加し、3月初旬のシーズン本番前後1試合を予定しています。予期していたより参加希望者が多かったため、今期はAチームと補欠のBチームを編成します。

**Dennis Ota**  
Extra-Curricular Clubs and Athletics Coordinator



U-14 girls basketball



U-18 boys basketball



U-18 girls basketball

## Week of Code

2018年12月の第1週にKISTでは3回目となるWeek of Codeのイベントが開催されました。このイベントでは東京近郊のテクノロジー関連企業や専門家の方をお招きして講演やワークショップ、プレゼンテーションなどが行われます。ほとんどすべての学年の生徒が新しいハードウェアやソフトウェアに触れたり、技術系の専門家の知識に触れることができました。例えば、Adobeの専門家の方をお招きして新しいAdobe Suiteを体験したり、コーディングの専門家に自作のビデオゲームコントローラーを発表したり、EA Gamesと共同で3Dゲームを製作したり、文教大学が開発した最新テクノロジーに触れたり、などです。

この一連のイベントウィークの締めくくりとしてKISTでは第2回Lego Robotics RoboJousting(ロボット相撲)トーナメントを主催しました。トーナメントにはたくさんのオリジナリティあふれるユニークなロボットが参加し、相手の「騎士」をフィールドから押し出そうと奮闘しました。Yokota Middle School、Yokosuka Middle School、St Maur International Schoolからも参加チームが来校しました。数々の激戦の結果、KISTのLance (G7A) と Ruby (G7A) のチームが優勝しました!



Ruby と Lance



他のチームのロボットも素晴らしかったけれど、自分たちのロボットが勝利することができたのはコーディングのおかげだと思います。ロボットがしっかりと線に沿って動けるようにプログラムをしたうえで、製作には想像力を駆使しました！」

Lance (G7A)

「とても楽しい時を過ごすことができました。90分という長時間、生徒たちが集中して参加してくれたことが本当にうれしかったです！」  
—EA Presenters

▲Week of Code

▼Lego RoboJousting Tournament



Web From Mr Tim for KISTv

▼The Week of Code video:  
<http://bit.ly/KIST-WoC-2018>

▼Inter-school RoboJousting video:  
<http://bit.ly/KIST-Lego-Jousting-2018>

▼Week of Code event website with full details of all guest presenters:  
<http://bit.ly/Code-2018>





# smartBowl 2019



2月9日の土曜日にKISTセカンダリー生12名が都内の他のインターナショナルスクールの生徒と共に一般常識を問うクイズ大会、smartBowlに参加しました。KISTの参加者のうち **Armaan** (G9A) と **Kishore** (G9A) がこのイベントについての短い記事をそれぞれ提供してくれました。この記事からもKIST生がどれだけ活躍したかが読み取れます。KISTは学校部門で優勝し、優勝トロフィーが正門わきのキャビネットに飾られています。生徒たちにこのような機会を提供して下さった主催者のSpotEd Japanに感謝します！

**Mark Cowe**  
Secondary School Principal

「イベントは参加者の年齢を考慮した20問の短答式の予選から始まりました。そのうちの一つは、パートナーのKishoreと笑ってしまったのですが、「少し前にInstagramフォロワー数が最も多かった有名人で、最近“たまご”にとってかわられてしまったのは」というものでした。運のよいことにどの問題も新聞やニュースを見ていれば自然と頭に入っているはずの情報で、そう難しいものではありませんでした。クイズマスターのLloyd Saldanhaは常にヒントを提供してくれ、回答が正しいかを教えてくれました！この回は簡単で、楽しいものでした。」



Armaan (G9A)

「結果が読み上げられるときは、だれが通過するかからなかったのが、ドキドキしました。自分たちの名前が読み上げられた時、まだ少し呆然としながらステージに上がりました。全部で6ラウンドあり、途中で観客への出題もありました。ステージ上の6チームが回答できなかった質問は会場の観客に回され、回答できた人には小さな褒美が提供されました。どのラウンドでも異なる形式やテーマに沿った出題がされたので、集中できました。クイズが終了すると、席に戻り、表彰式を待ちました。KISTからは**Ethan** (G10B) と **Siddarth** (G10B) が1位を獲得しました。**Satoshi** (G9B) と **Shriyan** (G9A) が3位で、**Armaan** と僕(**Kishore**) が4位でした。すべての参加校が獲得を目指していた学校賞をKISTが獲得しました！smartBowlはとても面白いイベントで、来年もぜひ参加したいと思います。」



Kishore (G9A)



2019 smartBowl Quiz Contest- 'Winners' (KIST)



2019 smartBowl Quiz Contest- School 'Winners' (KIST)



## G9 ピア・サポートリーダー

G9のピア・サポートリーダーがこの役割を担うことを決めた理由と、いくつかの有益なアドバイスをお伝えします！



Minn (G9B)

### 何故ピア・サポートリーダーになったのか？



ピア・サポートリーダーになろうと決めた理由は、自分の学年で問題を抱えている同級生がいたら、その力になりたいと思ったのと、ストレスや困難を抱えている人の助けになれば、と思ったからです。」

### G9の同級生にアドバイス



自分だけでは解決できない問題を抱えている時は、いつでも救いの手を差し伸べようとしている誰かがいるのを忘れないでください。あと少し勇気を出して、声をあげてください。」



Mehak (G9B)

### 何故ピア・サポートリーダーになったのか？



クラスメートからストレスや疲労の気配を常感じていました。自分の学年や学校コミュニティに(SRC役員になる以外の方法でも)貢献したいと思っていたので、良い機会だと思いました。」

### G9の同級生にアドバイス



課題を後回しにするのは簡単です(みんな一度は経験があるはず)でも少しずつ取り組めば、恐ろしく長くとつきにくく思われた英語のエッセイも最初ほど大変には思えなくなるはずです。まずは最初の一步、後回しにせず、早めに始めるとうまくいきます。」 😊

## Artscape 2019

今年の関東地区Artscape展示会に作品が選ばれた皆さん、おめでとうございます。

この毎年恒例のイベントは様々な教育を行う多様な学校の生徒が作品を展示し、共にその創造性を競いあうことができる素晴らしい機会を提供しています。

例年通り、KIST 生も技術的にも内容的にも技巧を凝らした自身の作品に誇りをもって展示に参加しました。

**Luke Jones**  
MYP/DP Visual Art Teacher



Eujin (G6A)



Uri (G10A)



## KPASS Middle School Brain Bowl

### 楽しいことはみんなで！

2月13日に10名のKIST生が毎年恒例のKPASS Middle School Brain Bowlに参加し、他校生と早押しや珍問・奇問まで様々なクイズで学問、なぞなぞ、他国の料理など多岐にわたる知識を競い合いました。



メダルを獲得したのは3チームで、そのうち、**Arnav (G7B)** のチームが3位、**Muskaan (G7A)** のチームが2位に輝きました。



いつも通り、校外でたくさんの人と知り合い、見知った顔と旧交を温めるのはとても楽しいことです。来年G6～8になる人はいますか？ぜひ参加してみてください！決して後悔はしませんよ。



**Louise Green**  
Supervisor

## 日本語俳句コンテスト

MYPのG6～G10の日本語のクラスで俳句コンテストが行われました。3つの異なるクラスの生徒が1つのチームを組み、コンテストに参加しました。コンテストのテーマは俳句と書道・墨絵を通して日本の伝統または近代文化を紹介することでした。その後、生徒たちは作品の中から各学年ごとに1位から3位までの俳句を選びました。入賞者はセカンダリー校長のMr Coweから賞状を受け取りました。

入賞者の皆さん、おめでとうございます。

**Kiyomi Kanazawa**

Subject Area Coordinator—Japanese



2位

- G6** Takeru (G6B)、Ryo (G6B)、Shota (G6A)  
**G7** Ryan (G7A)、Charlotte (G7A)、Leika (G7B)  
**G8** Elina (G8B)、Shin (G8A)、Shiven (G8B)  
**G9** Shiro (G9A)、Advay (G9A)、Eleina (G9B)  
**G10** Ishaan (G10B)、Sung Guk (G10B)、Sidaarth (G10B)



3位

- G6** Hana (G6B)、Dawon (G6A)、Zayan (G6B)  
**G7** Ethan (G7A)、Erika (G7A)、Shaunak (G7A)  
**G8** Tomoko (G8B)、Junyung (G8B)、Akanksha (G8A)  
**G9** Makana (G9B)、Andrew (G9B)、Armaan (G9A)  
**G10** Alia (G10B)、Sneha (G10B)、Shangzhi (G10B)



1位



**G6**

**Shuntaro (G6B)、  
Dia (G6A)、  
Aryan (G6A)**



**G7**

**Yusei (G7A)、  
Han (G7B)、  
Neha (G7B)**



**G8**

**Mariko (G8A)、  
Amey (G8A)**



**G9**

**Sara (G9A)、  
Rei (G9A)、  
Lilike (G9B)**



**G10**

**Abhinava (G10A)、  
Kaoru (G10B)、  
Ian (G10B)**

## 図書室ニュース

### エレメンタリー図書室

#### 新着情報 - Adobe Sparkを使って作成したポスター

Mr Timはエレメンタリーでの読書を促進するためにAdobe Sparkを使って多くのディスプレイ用のポスターを作成しました。英国出身ということもあり、Mr Timのお気に入りのキャラクターはクマのパディントンやプーさん、ピグレットです。K1Bの生徒たちにもこれらのキャラクターは人気でした！Masaki (K1B)はEric Carleの本やポスターがお気に入りです。



SparkはKISTのG8以上に提供されているAdobe suiteに含まれているソフトです。

#### エレメンタリーの絵本-新しく簡単なファイリングシステム

絵本のセクションを再整理することにご協力いただいたK1スタッフの皆さん: Ms Eri, Ms Claire, Ms Karen, Ms CyrilそしてMs IoannaにMr TimとMs Erikaから大きな感謝を捧げます。

生徒たちは自分で絵本を簡単に見つけられるようになりました。鮮やかではっきりした見出しで作者別に本を分けており、作者の苗字の頭文字が本の正面にも貼られています。絵本のセクションはいつでも整頓されていますよ！



Tsumugi (K1B) とTimothy Knapmanの恐竜の絵本



Riu (K1B) と Giles Andreaの絵本

#### New! エレメンタリー図書室とLMCでのMS Teamsの活用

図書の最新情報、最新の雑誌、図書イベント、生徒のための推薦図書や参考資料を見るために、Mr TimとMs Erikaによる以下のリンクにアクセス・登録してみてください。



#### 生徒のためのエレメンタリー図書ニュース

G4とG5の生徒はKISTメールアドレスとパスワードでTeamsにログインする方法を知っています。

Web <http://bit.ly/KIST-EL-News>

#### 生徒のためのLMC ニュース

生徒はKISTメールアドレスとパスワードでログインします。

Web <http://bit.ly/KIST-LMC-News>

#### LMC 中古本コーナー



DEAR やWorld Cultures Dayで寄付され、LMCに置かれることのない本は中古本として生徒に直接販売されます。販売で得た利益は LMCの本の購入に充てられます。

本の寄付はいつでも歓迎します！多量の寄付を検討されている場合は事前に図書スタッフにご相談ください。K1からG12にふさわしい本はフィクション・ノンフィクションを問わず歓迎します。

#### KISTv

Mr Timによる最近の学校イベントのビデオ:

- Web <http://bit.ly/KIST-WoC-2018> • Week of Code
- Web <http://bit.ly/KIST-Lego-Jousting-2018> • KIST Interschool Lego Jousting:
- Web <http://bit.ly/KIST-Spring-Sumo-2019> • Japanese New Year Party with sumo wrestlers
- Web <http://bit.ly/KIST-WCD-2019-video> • World Cultures Day

Tim Smith  
Teacher-Librarian



## 保護者会(CA)ニュース



### Events Committee(イベント委員会)

CAイベントコミッティは12月7日 深川消防署の救急隊員5名の協力を得て救急講習会を開催しました。16名の父兄が参加し、心肺蘇生とAED実習についての基本的な講習と実習を行いました。1時間という短い時間でしたが有意義な講習会となりました。

#### CA Events Committee



### IT Committee(IT委員会)

本年度よりKIST Community Association(CA)では、新たにIT委員会を設立致しました。

IT関連に経験と知識を持つメンバーが集い、現在では7名に及ぶで委員会のメンバーと共に運営を行なっております。2月22日に開催したITセミナーでは、30名以上の保護者様がご参加くださる盛況となりました。KISTが掲げるミッション、ビジョン、信条に沿ったIT環境の実現に向けて、生徒、保護者、学校との橋渡しができるようIT委員会として貢献して参ります。

IT委員会では、委員会への参加者を常時募集しております。CAについてもっとよくお知りになりたい方は、[ca.officers@family.kist.ed.jp](mailto:ca.officers@family.kist.ed.jp) からCA役員にお問い合わせください

#### CA IT Committee



- INTRODUCING KIST MS APPS AND ADOBE SOFTWARE -



## セカンダリーSRC

セカンダリーSRC(生徒会)は2018-19年度後半の再選そして新たに選出された役員を歓迎します。



Let your voice be heard

12月に2019年度の役員選挙が行われ、以下のメンバーが選出されました。

会長: Akino (G11B)  
副会長: Nimit (G11B)  
会計: Michiko (G10A)  
書記: Marlinah (G11A)  
広報: Thilo (G10B)



(左から右) Nimit, Marlinah, Akino, Michiko, Thilo

Michiko とThiloの役員昇格に伴い、新たにRiya (G10A) とKaoru (G10B)がクラス委員に選ばれました。新しい生徒会役員はクラス委員、生徒、学校と協力し、豊かで助け合い精神に満ちたエキサイティングな学習環境を創っていきたいと思っています。

これまでの所新生SRCでは多くのことを成し遂げていますが、直近ではSRC Valentines Danceが挙げられます。セカンダリー全体から約115名の参加者があったこのイベントではおしゃれなバレンタインの飾り付けがなされた会場で軽食やデザート、パフォーマンスなども行われました。SRCメンバーは各員会の委員長・役員の指導の下、このイベントのすべてを取り仕切りました。Food Committee は手作りのブラウニーやポップコーン、そしてこういったイベントの定番、みんなが大好きなピザを提供しました。Decorations Committee はイベントテーマである“love”に基づいて装飾を行い、Events Committee では写真ブースやパフォーマンスの手配と運営を行いました。最後にLogistics and Advertising Committee が今回のイベントの宣伝を行うとともにすべての総監督を行いました。

また、この日のハイライトは圧巻のパフォーマンスでした: Emily (G11A) はアカペラグループPentatonix の“Shape of You x Despacito” に合わせた陽気で爽快なダンスを披露し、Srinandhitha と Gi Jeong (G8B) がEd Sheeran



の“Perfect”のアカースティックバージョンを演奏しました。最後にG10B男子がサプライズで2018年度EYCで行ったTWICEの“Likey”を披露し会場を沸かせました。

SRCをサポートするため、宣伝や装飾に協力してくれた Arts and Media specialized committeesに特に感謝を捧げます。参加者の皆さんもイベントを楽しんでくださったことと思います！



最後に、秋のフリードレステイ(Denim Days!)の収益からSRCでは生徒が休み時間に使用できる新しいスポーツ用具をいくつか購入しました！購入したのはサッカーボール2つ、バスケットボール3つ、バドミントンシャトル18個と、ラケット6本です。SRC

ではKISTでの活動的な生活には学業と活発な運動が不可欠であると確信しています。新しい用具で生徒が活発な運動を楽しむことができることを願っています。

SRCは今後も生徒のためのイベントや活動を行っていきます。

**Secondary SRC**

## 保健便り

### インフルエンザについて

日本では、今年も近年で最もインフルエンザが流行した年となりました。KISTでもようやく終息といえる状態になりましたが、5月頃までまだまだインフルエンザの発症はありますので、改めてインフルエンザについてお話させていただきます。



### インフルエンザとは？

気道感染によるものです。インフルエンザウイルスは感染者が咳、くしゃみ、話しをしている時にわずかな唾液や鼻水などを介して感染します(飛沫感染)。まれに感染者が触れた部位にウイルスが残っており他者が同じ部位に触れ、その手を自分の口、鼻や目を触ることによって感染します(接触感染)。

### インフルエンザの主な症状とサイン

- 急激な高い発熱(38℃以上)
- 疲労や衰弱
- 頭痛
- 咽頭痛
- 鼻詰まりや鼻汁
- 咳
- 悪寒や発汗
- 筋肉痛や体の痛み
- 食欲不振
- 嘔吐、腹痛や下痢(これらの症状は大人より子供の方が多くみられます。)

もし、お子さんにインフルエザ感染疑いが考えられる場合は医療機関でインフルエンザ検査を受けることをお勧めします。検査は子供や免疫力が低下している人がインフルエンザ感染の有無をの判定を受けることにより医師が的確に治療方針を決めるのに有効です。

### インフルエンザ感染に伴う重篤な症状

- 呼吸困難や浅く早い呼吸
- 咳の悪化
- 胸部痛
- 耳痛
- 十分に水分を取ることが困難
- 起きていても6時間以上排尿がない
- 目が覚めない
- 意識の混乱
- 嘔吐が4時間以上続いている
- 激しい下痢
- 発作やひきつけ

### インフルエンザ治療と対処法

- 抗ウイルス薬、オセルタミビル(商品名はタミフル)、



ザナミビル(商品名はリレンザ)、パロキサビルマルボキシール(商品名はゾフルーザ)やラニナミ

ビル(商品名はイナビル)などが医師から治療薬として処方されます。これらの薬はインフルエンザ感染に伴う辛い症状や期間、合併症を抑えるのに有効です。抗ウイルス薬は症状が進行する48時間以内に使用するのが一番効果的です。

- 自宅療養し可能であれば家族内でも必要以上に感染者と至近距離でのコンタクトは避ける。
- こまめに水分補給をはかり脱水予防に努める。
- 室内で加湿器を使用し湿度管理を図り呼吸を楽にする。
- 温めの食塩水などでうがいをして喉の痛みを和らげる。
- 十分な休息と睡眠は免疫機能を助ける。
- こまめな手洗いは他者への感染予防に繋がるので心がける。

### 注意点

抗生剤はバクテリア感染には有効ですがウイルス感染のインフルエンザには無効です。

インフルエンザの解熱剤として小さな子供や青春期の子供へのアスピリン使用は肝臓や脳障害(ライ病)の報告がされており、医師の指示以外ではアスピリンの使用は避けるべきです。

### インフルエンザ予防方法

- 咳やくしゃみをする時はティッシュなどで鼻や口を覆うか袖や腕でカバーをする。
- 手を清潔に心掛ける: 食事前やトイレの後、咳やくしゃみ、鼻をかんだ時は石鹸でしっかり洗いよく水で洗い流して下さい。
- 石鹸や水がない場合はアルコールジェルで手の消毒をする。
- お子さんに咳やくしゃみがある場合はマスクの使用を考慮する。
- 口、鼻、目などは出来るだけ触れない。
- 洗っていない食器、箸やフォークやタオルなど共有することは避ける。
- 食品をシェアすることはウイルス感染の可能性もあるので避ける方が望ましい。
- テーブルや椅子、ドアノブやコンピューターマウスなど複数の人が触れる部位の消毒。
- こまめに水分補給を図る。
- 健康的な生活習慣を心掛ける。十分な睡眠、栄養バランスの良い食事、体を動かし抵抗力や免疫機能を上げる。



## 前ページの続き

- 可能であれば人込みを避け、咳やくしゃみなどインフルエンザ症状が疑われる人との距離を保つ。
- 数分程度、部屋の窓を開け換気をはかり新鮮な空気を取り込む。

## インフルエンザ出席停止期間の基準

学校保健安全法の改正に伴い、インフルエンザ感染後の登校再開日数が変更されました。発症後5日間、解熱後48時間は感染力がありますので、発症して5日経過後、かつ、解熱した後2日を(K1~K3は解熱後3日)過ぎてから登校して下さい。

ご質問などありましたらお気軽にご連絡下さい。(yukiko.yamazaki@kist.ed.jp)

宜しくお願いします。

**Yukiko Yamazaki**  
School Nurse

## 参考資料:

- Centers for disease control and prevention: Influenza. (2019, Feb. 18). Retrieved from <http://www.cdc.gov/flu/>
- Kids Health: Tips for treating the flu. (2019, Feb. 16). Retrieved from <https://kidshealth.org/en/parents/tips-take-care.html>

## 移民・難民危機

1月25日にMr Jordan HattarがG9の生徒に移民・難民問題、そして難民の人権についてお話くださるためにKISTに来校されました。氏の来校は、現在学習している単元、「人口と移民」について私たちが理解を深めるまたとない機会となりました。G9BのRyuunとMehak、G9AのShiroとともに、私もパネルリーダーとしてディスカッションに参加し、各クラスで用意した質問をすることができました。

まず、Mr Hattarがどのようなことをなさっているか、そしてそれが今回のディスカッションのテーマにどのように関連しているかについて学びました。氏が難民支援のために紛争地域である南スーダン、ヨルダン・シリアなどの国々に行かれていたと知り、感銘を受けました。また、実際に氏が訪れた難民キャンプの現実、粗末なテントで難民家族や子どもたちが過酷な暮らしに耐えていることについても話してくださいました。このお話を伺って私は、はじめてUNHCRなどの国際機関が、その努力にもかかわらず、困難な状況をたちどころに「解決」できるわけでないと感じられました。Mr Hattarは難民支援のために安定した住居を必要とする人々にトレーラーを提供するなど、様々な活動をされています。しかし、Mr Hattarもおっしゃっているように、難民問題は何年も続いている課題で、解決は非常に難しいようです。

その後、ディスカッションはこの問題の別の側面に移りました。ホスト国(受入国)での難民問題です。ヨーロッパ各国やトルコなどの国々がシリア難民を多く受け入れているという知識はありました。その一方で、多くの難民が貧しい近隣諸国に移住をしているということも授業で学びました。私たちは豊かな国々がもっと多くの難民を受け入れるべきかや、その他受入国に関する質問をしました。Mr Hattarは難民は受入国にとって重荷になると考えられている一方で、受入国や難民にとって利点もあるということをお話してくださいました。氏は難民に関する短いビデオを見せてくださいました。そこにはヨーロッパの難民が当初祖国と離れた国で困難に直面しながらも、職を得て安全で幸せな生活を営めるようになっていく経緯が映し出されていました。

ディスカッションの終わりに、どうすれば私たちも難民を支援できるか、支援には何が重要かをあたずねしました。Mr Hattarは難民支援で大切なことを一つ教えてくださいました;それは思いを共有し、話を聞くことです。多くの国で難民と触れ合った経験から、どの人にも語りた記憶や思いがあるということを実感されたそうです。私たちが難民キャンプを訪問したり、物質的な支援をすることはできないかもしれませんが、難民の方の話を聞き、自分の



コミュニティの難民や移住者を歓迎することはできるのです。

人道家としての非常に貴重な経験を共有していただき、私たちの(答えづらいものもあった)質問にも熱心にお応えくださったMr Jordan Hattarをお迎えし、一同非常に意義のある時間を過ごすことができました。午後には(私を含め、G9の生徒も数名在籍している)KIST MUNクラブでさらに多くのお話をしてくださいました。私たちの学年一同、Mr Hattarの来校と、そのお話に心から感謝しています。ありがとうございました!

Hanna (G9A)



## MUN(模擬国連)会議

### KISTの代表者が模擬国連会議に参加

2月の9日と10日にKIST模擬国連代表者が川崎市の洗足学園で開催された第5回Japan Metropolitan模擬国連会議(JMMUN)に参加しました。ここで議論されたテーマには大衆的国粹主義への対応、少数民族の植民地化の解除や精神的な健康の促進などがありました。会議で表彰を受けた以下の代表の皆さん、おめでとう。



世界保健機構の代表団



社会、文化、人権委員会の代表団

MUN代表者の感想です。

#### Hanna (G9A)

今年のJMMUNも私にとって楽しく、忘れられない経験となりました。今年で2回目の参加なので、知らない人たちの中に見知った顔もたくさん見かけました。そして皆、MUN形式のディベートに直ちに突入しました。最初はディベートを始めるのに興奮しつつ、自分が代表を務める国がアンティグア・バーブーダ(Antigua and Barbuda: カリブ海にある小国家で、クルド・パレスチナ問題に深くかかわっている)だと知って不安も感じていましたが、スピーチをいくつか行った後で、この国家の立ち位置や意見について他校の生徒と議論することを心地よく感じるようになりました。20~25名の代表者に意見を求め、それらをまとめて問題解決の方法を探るのは大変な作業でしたが、やりがいがありました！採択された意見はありませんでしたが、ディベートやスピーチのスキルを得ることができただけでなく、世界で起きている問題についてより多くの知識を得ることのできた貴重な経験となりました。

委員会のディベートセッション終了後、とても疲れましたが有意義なディベートを行えた満足感と開放感もありました。と、同時にこれがどれだけ忘れ難く、素晴らしい週末であったかをしみじみ感じました。特にMehakを含むKIST生が最優秀賞を獲得(おめでとう)したことでこの気持ちはさらに強まりました！小雪のちらつく中、(新しく作った、そして古くからの)友人たちと一緒に、どれだけ楽しい週末だったか、そして何より頑張った自分へのご褒美としてゆっくり休みたいと考えながら家路につきました。

SOCHUM 委員会  
最優秀代表者  
Nimit (G11B)  
セルビア代表



SOCHUM 委員会  
最優秀論文  
Riya (G10A)  
オーストラリア代表



SPECPOL委員会  
優秀代表者  
Mehak (G9B)  
ガボン代表



#### Mehak (G9B)

参加者全員が実際の社会問題解決に真剣に貢献したいという真摯な気持ちを持って臨むMUN会議に参加することは非常に啓発的で貴重な経験です。一人で一国の代表者として臨むのはこれが2度目です。とても大変ですが、心から楽しむことができました。Hannaと同じように、開会式ではもうディベートから絶対に逃れられないと思い、とても緊張しました。そして初めて会った人たちと(正直に言うとほとんど知っていることのない)ガボンという国の代表として演壇の前で話することに恐怖すら覚えました。でも、いつものように、話し出すと、もちろん緊張は完全に溶けてははいませんが、私の中の冷静で論理的な部分が顔を出してくれました。他の代表者たちの民族自決権や脱退(連邦脱退)や各種政策への知識量や意見の豊富さ、自信をもって発言する姿に感銘を覚え、多くを学びました。一日目の終わりににはくたくたになりましたが、それでも時間がたつのがあっという間に感じました。

私がディベートで一番好きな部分がありました。実際に積極的な交流や活発な議論やディベートが行われる問題解決への提案です。Hannaと私は他の2~3名の代表者と一緒にグループのリーダーシップをとることになりました。ある程度の人数の初めて会った人たちをリーダーとして監督・管理するのは簡単ではありませんでしたが、管理能力を養うための有意義なものとなりました。残念なことに実際の決議では委員会の提案はどれも採択されなかったのですが、それでも得票数は28対29と採用まであと少しのところまではいけました。閉会式ではKIST生が3つの賞を獲得したことを誇らしく思いながら迎えることができました。そして私も受賞者に選ばれたことを何よりもうれしく名誉に思いましたが、この賞は本当は、ディベートに参加した皆でいただいたものだと思っています。帰り道に長い間電車に揺られながら2日間のあらゆる印象深い瞬間についておしゃべりしながら、やっとゆっくり眠れるとしみじみ感じたことを思い出します。

## Staff 10!

今号のStaff 10!では2015年8月にエレメンタリー-のELSインストラクターとして勤務を始め、2016年8月からは教員として勤務しているCatherine (Cat) Wellsをご紹介します。Ms Catは現在K2Aの担任です。



Ms Cat が華やいだ教室の雰囲気を楽しんでいます。

### 1) 出身地について面白いことを教えてください。

英国中部の州、ベッドフォードシャーにある小さな町、クランフィールドの出身です。町名は「鶴の原」で、あまりに古くからあるため、中世の土地台帳、Domesday bookにもその名前が載っているくらいです。町には強盗に首を切り落とされたLady Snaggeによって呪われた道路が存在します！

### 2) 世界で一番好きな場所はどこですか？

これまで幸運にも世界各地をバックパッカーとして巡り、素晴らしい経験をしてきました。そのなかでも一番のお気に入りを選ぶとすれば、世界遺産にも登録されているインドのハンピです。ここには何マイルにもわたって廃寺や神殿、水道橋、などが散在しています。過去の王朝の廃墟を巡り、川で泳いだり、山頂から日没を眺めたりしたことは決して忘れることのできない魔法のようなひと時でした。

### 3) チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

一人だけ選ぶなら、Christopher Hitchensです。彼は英国人の思想家・作家・論客で、時として自らに矛盾していたこともありますが、その強い意見や信念で知られています。私は彼の雄弁さや明確な思想と言論の自由に関する活動、反世俗主義、そして他者が敬遠するような人物や団体に対しても臆さず意見をぶつける姿勢を尊敬しています。Christopher Hitchensから学んだ最も大切なことは、全てに対して疑問を持って臨むこと、です。これは皆が習得すべきスキルだと思います。

### 4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

特に非凡な才能は有りませんが、大学で美術を学んだので、絵画やイラストを描くことが得意です。英国にいたときはグラフィックデザイナーとして働いていて、雑誌や新聞にイラストを描いたりもしました。なので、様々なアートの技法を習得しています。

### 5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

これまで27年間ずっとベジタリアン・ビーガンとして過ごしてきました。その理由は小さなころにもう生き物を食べたくないと思ったからで、以来ずっと肉を口にしていないです。ですが、これは日本のようにおいしい魚や肉を提供している国ではなかなか難しいことでもあります！

### 6) あなたにとって一番の宝物は？

私は物質主義ではないのですが、Kindleだけは、なしではいられません。私はとにかく旺盛な読書家で、物語に没頭しているときほど幸せなことはありません。私の中での完璧な午後の過ごし方は、紅茶を飲みながら夏は木陰、冬はソファの上Kindleで読書する事…至福の時です！

### 7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

Open-minded(心を開く人)だと強く思います。自分の生まれ育った国とは違う土地を旅したり、そこで生活をしたり、仕事をしたりするには他の人の価値観や異文化に対して心を開き、柔軟に受け入れることが必要です。旅行中は常に多様性こそが世界をこのように素晴らしい場所に行っているのだと念頭に置いて行動していました。

### 8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

何も変えませんが、そして人生を後悔のないように生きたいと思います。これまでの経験が-それが良いものでも悪いものでも-今の私を形作るのだとしたら、それを変える必要はないと思うのです。

### 9) 自分を高めるために今やっていることは？

常にいろいろなことを改善し、成長したいと思っています！今はヨガの練習を頑張ったり、Chinese flute(竹製の横笛)の習得を目指したり、時差があるので難しいですが、世界中に散らばる友人や家族との連絡をもっと密にとるようにしたりしています。

### 10) ファンに一言お願いします。

毎日出勤して、K2の子どもたちが私をいつも笑顔にしてくれることをとても幸せなことだと感謝しています。

## オフィスアップデート

### 書類発行依頼

在学証明書、推薦状、成績証明書等の書類を依頼される場合の手続きについてお知らせいたします。



すべての書類発行依頼は学校オフィスで受け付けます。書類発行依頼または他校への出願(サマースクール等特別プログラム含む)に関する書類記入の依頼は全て以下リンクから入手可能な **Documentation Request Form** に詳細記入の上、オフィスにご提出ください。推薦状に関してもオフィスで一括して依頼を行いますので、個々の教師への直接の依頼はなさらないようお願いいたします。

**Web** <http://www.kist.ed.jp/node/5>

書類の発行には時間がかかることがありますので、出来る限り早めの依頼をお願いいたします。

## クラブ活動のハイライト

### スクラッチ・プログラミング クラブ(エレメンタリー)

私は2013年にScratchを開発した研究者たちのグループである、Lifelong Kindergarten Groupがマサチューセッツ工科大学(MIT)のメディアラボで初めて提供したLearning Creative Learning massive open online course (MOOC)に参加しました。これ以降も彼らはProjects(プロジェクト)、Passion(情熱)、Peers(仲間)、そしてPlay(遊び)の原理に則った、若いプログラマーが楽しくコンピュータサイエンスを学べる機会を提供し続けています。

私はKISTの熱意あるエレメンタリーのプログラマーたちがプロジェクトに取り組み、学び、共有する場を提供できることを非常にうれしく思っています。ここでの経験で自信をつけた生徒たちが将来テクノロジーを創造的に用いて社会に意義ある貢献をしてくれることを願ってやみません。

Learning Creative Learning MOOCに関心をお持ちの方はこちらをご覧ください。

**Web** <https://learn.media.mit.edu/lcl>

クラブ参加者が完成させたScratch Projectはこちらです。

**Web** <https://sway.office.com/LNo6PopC5hwHXOec>

**Bartholomew Miller**  
Club Supervisor



### アクロヨガ/ルエダ クラブ(セカンダリー)

空を飛びたいと思ったことはありませんか? アクロヨガなら、できます! アクロヨガはヨガとアクロバットが融合したものです。例えば、他の人の足の上でヨガのポーズをとっている自分を想像してみてください。これには3人の人が必要です。足の上に乗せて支える人、足の上で「飛ぶ」人、そして安全のために補助する人です。徐々に難しい技に挑戦していくので、だれでも自分に合ったペースで進められます。アクロヨガでは楽しく、安全な環境でつながりを培うことができます。

楽しく繋がることはルエダの根幹でもあります。ルエダは皆さんもご存知のサルサの基本ステップに若干ひねりを加えた踊りです。大きな輪を作り、同時にペアやグループの振り付けで踊ります。水泳のシンクロの動きを思い浮かべるといいかもしれませんが、もっと楽しく軽い気持ちで、サルサのリズムに合わせて踊れます。

アクロヨガ/ルエダ クラブは2つのセッションに分かれています。アクロヨガ30分、ルエダ30分です。セメスター1でクラブに参加していたメンバーのコメントです。

「アクロヨガとルエダの最初の集まりはとにかく新鮮で、好奇心と興奮を掻き立てるものでした。新しいことを学ぶたびにその楽しさにどんどん魅了されていきました。全く新しい、未知の世界に足を踏み入れたような気持でした」

**Florent Debouverie**  
Club Supervisor



## 卒業生の声

Jamieは「2015年度卒業生」で現在名古屋大学で法律を専攻する4年生です。

皆さんこんにちは！2015年度卒業生のJamieです。私を覚えてくれている人もいると思いますが、そうでないかも、はじめまして！私は現在日本の名古屋大学(NU)で法律を専攻しています。今年で4年目を迎える私の体験を皆さんと共有したいと思います。

4年前のちょうど今頃、私はDP試験の勉強をしながら、大学出願のための志望動機書を準備したり、大学フェアに参加したりしていました。名古屋大学との出会いはKISTで開催された大学フェアでした。名古屋大学で魅力を感じたのはすべての授業が英語で行われる「G30プログラム」でした。私は英語での教育を引き続き受けることを希望し、かつ法律に興味があったので、NUのG30に法律専攻で出願することを決めました。

NUに入学するという事は全く新しい生活を始めるということの意味していました。それまで10年以上東京に両親と暮らしていましたが、2015年の秋に名古屋の寮での生活が始まりました。寮生活のおかげで同じ法律専攻だけではなく、様々な専門分野の友人を作ることができました。また、様々な国や背景を持つ人たちと交わることで引き続き国際的な環境に自分を置くこともできました。

寮生活は本当に楽しかったです！私の入った年には季節の行事や料理の大会などが開かれました(とてもおいしいお菓子も出品されました)。課題で疲れたときはいつでも友達の部屋を



名古屋大学の学食前で先輩と友人と一緒に(Jamie左)

訪問して気分転換することができました。残念なことに、寮は1年目の生徒のみに提供されていたので、私を含む全員が2年目には退寮しなければなりませんでしたが、本当に素晴らしい時を過ごせました。

学習に関して言うと、NUのG30は私が入学したときに求めていたものを提供してくれています。クラスも少人数(20-30名程度)で教授との距離も近いです。一クラス当たりの人数が更に少なく(10名以下)なりれるゼミは特に気に入っていて、個人的に興味を持った問題について研究することができます。例えば、ゼミの一つでは芸術作品売買と法律の関係について研究しました。もちろん、すべてのクラスでは真面目に学習に専念することを求められます。試験や発表、論文提出のスケジュールはかなり厳しく過密なもので、常に学習し、時間の管理を行うスキルが求められますが、私はこれらの授業から多くを学びました。今年は日本語で提供されている法律の授業を選択することも許可されたので、日本憲法と民法の授業を日本語で履修しました。このように、国際法と日本の法律の両方を学べるところがNUのG30の利点だと思います。

3年時にはNUの交換プログラムを利用して中国の復旦大学へ留学しました。このおかげで中国語のスキルに磨きをかけ、NUでは提供されていない法律の授業を履修することができ、さらに新しい友人関係を築くことができました。留学中はこれまでに絶対自分が想像もしていなかった経験もできました：中国人の獣医さんと話をしたり、Weiboにコメントをポストしたり、上海の町を仔猫の入った箱をもって、その命を助けるために友達と走りまわったり、などです。

クラブ活動(サークル、と呼ばれていません)に関してですが、新しいことを始めてみようと思い立ち、日本人学生と同じバンドに参加し、ステージで演奏することができました！これらの経験を通してNUとNUの人々が私の学習と、社交・交友関係の両面を支えてくれて



友人たちと復旦大学で(中央がJamie)

いると感じることができました。

私が12年生のころ、多くのクラスメートがUSやUKの大学に出願していて、(主に学費が理由で)日本の大学に出願したのは私だけでした。当時、他の皆と同じ進路をとっていないことや、NUについて、そしてG30プログラムについての情報も非常に少なく、とても不安に感じていたのを覚えています。でも、ここで3年間を過ごした今では自分の選択に満足しているとはっきり言えます。今、4年目を迎え、私は就職活動をしています。ここでも、12年生当時と同じく、私は少数派の一人です。友人たちの多くは帰国し、また、修士課程に進む人たちもいます。でも、今回、私は自分の進路に自信を持っています。

その理由は、どこに行こうとも自分から行動を起こせば、助けは与えられると知っているからです。だから、自分の人生を前向きに歩いていくのが大切なのだと思います。どの大学に入学しようとも、卒業証書や学位、資格より多くのものを得られるのです。

人生は長いです。そして自分から歩みを止めない限り続いていきます。そして成功へのチャンスも与えられています。不安に思わず、皆さんがベストを尽くすことを願っています！

**Jamie**  
KIST Alumnus, "Class of 2015"



友人たちと中国、万里の長城へ旅行中(中央がJamie)

# *K. International School*

## *Spring University Fair*



**Date: Thursday, March 21, 2019**

**Time: 2pm - 4pm**

**Venue: KIST Gym**

*Bond University*  
*Glion / Les Roches*  
*Griffith University*  
*Hosei University*  
*Imperial College London*  
*International Christian University*  
*Juntendo University*  
*Keio University*  
*Kyushu University*  
*Lakeland University Japan*  
*Musashino University*  
*Nagoya University*  
*Okayama University*  
*Queensland University of Technology*  
*Ritsumeikan Asia Pacific University*  
*Ritsumeikan University*  
*Sophia University*  
*Stony Brook University*  
*Temple University, Japan Campus*  
*The Hong Kong Polytechnic University*  
*The University of Aizu*  
*The University of Queensland*  
*The University of Tokyo*  
*Tokyo International University*  
*University of St Andrews*  
*University of Tsukuba*  
*Waseda University*  
*Yamanashi Gakuin University*



*KIST University Guidance Office*

Mr. Eniko Okuda [eniko.okuda@kist.ed.jp](mailto:eniko.okuda@kist.ed.jp)